

令和4年度・5年度 杉並区教育委員会教育課題研究指定園

教育課題 「幼児期に育みたい資質・能力」に関わる研究

研究主題

幼児の“やりたい”を支える環境の工夫

杉並区立西荻北子供園



ご挨拶

杉並区教育委員会 教育長
白石 高士



私たちは皆、一人ひとりが自分の思いをもったかけがえのない存在です。特に、子どもは自分の思いを大人に伝え、それを受け止めてもらうことで自己肯定感が高まり、主体性や探究心が育まれていきます。本区では、「杉並区教育ビジョン2022」において、教育の当事者が大切にしたい視点の1つとして「子どもの思いを尊重する」ことを掲げ、日々の保育や教育活動を行っています。幼児教育における基本は、まさにこの思いを尊重していくことに他なりません。

幼児は、自らの“やりたい”という思いを出発点にして、周囲の環境に働きかけながら様々な活動を生み出し、必要感や興味、関心などを軸として連続性を保ちながら活動を展開していきます。そして、保育者はこうした幼児一人ひとりの思いを受け止め、寄り添うことで、自らもまた学びの支え手として環境の一要素となります。幼児は遊びを通じた試行錯誤の過程において、自らに必要な「もの」「こと」を獲得していきます。こうした経験こそが、予測困難で変化の著しい時代を生き抜くための主体性や協調性などの必要な力を育み、人格形成の基礎を培うものと考えます。

結びに、本園の研究結果が、多くの就学前教育施設における教育・保育に生かされ、「幼児期に育みたい資質・能力」の育成につながることを願っています。

はじめに

杉並区立西荻北子供園 園長
石床 美穂子



本園は、令和2年度・3年度杉並区教育委員会教育課題研究指定園として、研究主題「幼児期に育みたい資質・能力～幼児の“やりたい”が引き出される環境の工夫～」について研究に取り組み、“やりたい”という思いをもって幼児が主体的に遊ぶ姿から、環境の在り方について考察を深めました。幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点を見いだしたことは、令和2年度・3年度の研究結果だと考えます。

引き続き取り組んだ本研究では、幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点から、保育の振り返りと次の保育の構想を保育者同士で丁寧に話し合い、考えることを大切にしてきました。研究を通して、保育の経験年数にかかわらず保育者同士が活発に意見を出し合い、話合えるようになり、保育の見方や考え方が広がってきました。その保育者の変容は、子どもたちの「やりたい」「たのしい」「もっとこうしよう」という生き生きとした姿につながっていました。保育者も子どもたちも成長しているということが、この研究の成果だと思います。

本研究の成果が、杉並区の就学前教育の充実を生かされるよう、今後もさらに研究を積み重ね、保育の質の向上と充実を目指してまいります。

この研究を進めるにあたり、いつもあたたかく、学びの多いご指導、ご助言をいただきました共立女子大学教授 田代幸代先生、このような貴重な機会を与えてくださいました杉並区教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。

主題設定の理由

「幼児期に育みたい資質・能力は、幼児が“やりたい”という思いをもって主体的に遊び、直接的・具体的な体験の中で育っていく。幼児の“やりたい”という思いは、保育者の環境の工夫が支えとなる。」という仮説をもち、令和2年度・3年度の研究結果である幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点(①自分で用具・教材を扱えるように②繰り返しやりたいと思えるように③試したり、工夫したりできるように④表現する楽しさを感じられるように⑤安心してものや人と関われるように⑥興味をもてるように⑦友達と一緒に楽しめるように)を活用しながら、保育の充実を図り、幼児期に育みたい資質・能力の姿に迫りたいと考え、研究主題を設定した。

令和2年度・3年度 研究主題

幼児の“やりたい”が引き出される環境の工夫

令和4年度・5年度 研究主題

教育課題「幼児期に育みたい資質・能力」
幼児の“やりたい”を支える環境の工夫

研究の目的

- 1 「幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点」を活用して環境を工夫し、保育の充実を図る
- 2 幼児期に育みたい資質・能力と幼児の“やりたい”という思いを支える環境を捉える

研究の方法

先の研究では、つくって遊ぶ事例の考察が多くなったことから、本研究では、運動的な遊びの場面を意識的に取り上げ、環境の在り方と幼児期に育みたい資質・能力を考察する。

1 保育の充実を図るために

日々の保育では、幼児がどこで何をし、どのように環境に関わっているかという幼児の姿から、幼児の経験や育っていることを読み取り、次に必要な経験として考えられることを願いとして保育に見通しをもつとともに、この経験が満たされる活動や環境の工夫を考えて実践を進めている。

本研究でも事例を通して、「幼児の姿と読み取り」「願い」「環境の構成」の流れで幼児期に育みたい資質・能力と環境の在り方を考察し、保育の充実を図る。

その際、「幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点」を土台として保育を構想することで、適切な環境が支えとなり、幼児の体験が、より主体的で豊かなものになるようにしていく。

なお、令和2年度・3年度の研究で見いだした7つの観点について再検討した結果、「安心してものや人と関われるように」という観点は保育の基盤であるため、本研究では環境の観点を6つとした。



「幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点」

<p>知識及び技能の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で用具・教材を扱えるように 繰り返しやりたいと思えるように 	<p>思考力、判断力、表現力等の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 試したり、工夫したりできるように 表現する楽しさを感じられるように 	<p>学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味をもてるように 友達と一緒に楽しめるように
---	---	--

2 幼児期に育みたい資質・能力と幼児の“やりたい” という思いを支える環境を捉えるために

実践事例を遊びの種類ごとに整理し、幼児が環境に関わりながら遊びを展開していく保育の過程を学年ごとに考察する。

学年ごとの考察を基に、幼児の成長・発達や遊びの変化・深まりの傾向を理解し、幼児期に育みたい資質・能力と幼児の“やりたい”という思いを支える環境を捉える。

全学年の事例の整理



実践事例の整理を通して、
幼児期に育みたい資質・能力を捉える。

「幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点」を
基に環境の在り方を考察する。

幼児期に育みたい資質・能力

- 知識及び技能の基礎
- 思考力、判断力、表現力等の基礎
- 学びに向かう力、人間性等

幼児の“やりたい”という思いを支える環境の工夫

「やりたい」という思いを支える環境の観点	3歳児	4歳児	5歳児
自分で用具・材料を扱えるように
繰り返しやりたいと思えるように
試したり、工夫したりできるように
表現する楽しさを感ずられるように
興味をもてるように
友達と一緒に楽しめるように

実践事例

日々の保育の振り返りが次の保育の構想につながるように「幼児の姿と読み取り」「願い」「環境の構成」の流れを積み重ね、「幼児の“やりたい”という思いを支える環境の観点」に基づき、環境の在り方と幼児期に育みたい資質・能力について考察する。

次項は、多くの実践事例の中から、研究を進める過程の例として、P.6全学年の事例の整理「遊具を使って動く遊び(ボールなど)」の5歳児のドッジボール的当てゲームについて記載している。

実践事例 ドッジボールからの当てゲーム



11月7日 ～みんなでドッジボールをやってみよう～

● 幼児の姿と読み取り

10月下旬の運動会では、友達と力を合わせてやり遂げるうれしさを感じていた。運動会の取組が終わっても、友達と一緒に力を発揮したいという幼児の思いが強いと感じた保育者は、学級活動にドッジボールを取り入れた。2チームに分かれ、コートの中の人ボールに当たったらコートの外に出る、コートの中の人がいなくなったら終わり、という簡単なルールを学級のみならずで共通にして遊び始めた。相手チームの幼児を狙ってボールを投げるが、思うようにボールを投げられないため、コートが広がったため、相手チームにボールが当たることは少なく、友達と力を合わせている手応えを感じられないようだった。

● 願い

ボールを投げる、ボールをよけるなどの動きが活発になって、ドッジボールのゲームを楽しんでほしい。

● 環境の構成

“やりたい”という思いを支える環境の観点	環境の構成
繰り返しやりたいと思えるように	<ul style="list-style-type: none"> ボールを投げたりよけたりしてドッジボールが活発に面白くなるような大きさのコートを園庭に設定する。コートの設定では、投げたボールが相手チームに当たりやすいように縦は短く、また、ボールをよけるための移動がしやすいように横は長くする。 保育者も遊びの仲間の一員としてボールを投げたりよけたりして動き、幼児がドッジボールの面白さを感じられるようにする。
友達と一緒に楽しめるように	<ul style="list-style-type: none"> 保育者も幼児と一緒に動き、遊びの課題に気付かせたり、幼児の考えを整理したりしながら、ルールが共通になってドッジボールの楽しさを感じられるようにしていく。

11月8日 ～ドッジボールをしようよ～

● 幼児の姿と読み取り

幼児が10人くらいでドッジボールを始めることを想定し、保育者がコートを設定しておく、「ドッジボールしようよ」と何人かの幼児が始める。保育者も参加し、「ボールに当たりそうでドキドキするね」「ボールをよく見よう」などとつぶやきながら投げたり投げたりして一緒に楽しむ。その様子を見て、他の幼児も遊びに加わってくる。友達が投げたボールが相手チームに当たると、「やったね」と声を掛けたり、一緒にボールをよけて「当たらなかったね」と幼児同士で顔を見合わせたりして、互いにつながりを感じているようだった。友達と一緒にドッジボールを進める楽しさを感じているが、「もっと当たるといいな」「投げるのをがんばるぞ」と言い、「当てたい」という思いが強くなっているようだった。

11月10日 ～的当てゲームでボール投げ～

● 幼児の姿と読み取り

ドッジボールをしていた幼児のうち4人が、「もっと強くなりたい」「ドッジボールの練習場をつくらう」と言ってホールに行き、フープを立てて的当ての場をつくる。投げたボールがフープを通り抜け、的に当たると「バン」と音がする。音の大きさがボールの速さを実感しているようだ。何回かボールを投げて当たるようになると、「もっと難しくしよう」と言って、大きいフープを小さいものに変えたり、数本のフープをトンネルのように並べたりして、簡単にはボールが的に当たらないように自分たちで変化させていった。少し難しい場につくり替えたため、ボールが当たることは少なくなってきたが、「当てたい」という思いは強くなり、繰り返し投げる。次第にボールがフープを通過して的に当たることが増えてくる。「やったあ」「2回当たった」と、手応えを感じながらボールを投げている。

「ドッジボールが強くなりたい」と言って始めた的当てゲームだが、思った向きや力加減でボールを投げることに手応えや面白さを感じているようだ。

● 願い

「もっと難しいことに挑戦したい」という思いが強くなってきたので、自分たちで次のめあてをもって遊び方や遊びの場を考へたり工夫したりして楽しんでほしい。

●環境の構成

🧩 物的環境の工夫 🧩 人的環境の工夫

“やりたい”という思いを支える環境の観点	環境の構成
🔄 繰り返しやりたいと思えるように	🧩 自分たちで考えた的当ての場を「こうしてみたらどうだろう」と変化させられるように、違う大きさのフープや重量感のある水入りペットボトルも置いておく。的の違いによって投げ方が変わることへ気づき、少し難しくても繰り返し投げる面白さを感じられるようにする。
👉 試したり、工夫したりできるように	🧩 自分の思い付きを伝えたり友達の考えを受け止めたりする姿を支え、工夫する面白さを感じられるようにする。
👥 友達と一緒に楽しめるように	🧩 少人数で集まり、自分たちで挑戦したいことが実現できる時間と場を保障する。 🧩 ボールが的に当たることを喜び合ったり、競い合ったり、応援し合ったりする中で、友達同士の温かい関わりを育む。

11月11日 ～的当てゲームからドッジボール～

●幼児の姿と読み取り

翌日、4人の幼児は登園するとすぐにホールに行く。前日と同じように的当ての場をつくると、フープの的を通すために、力を調整しながら慎重にそっと投げる。

さらに、置いてあった水入りペットボトルを台の上に並べ、新たな的当ての場を作る。ペットボトルの的を狙って思い切りボールを投げるが、中の水が重く、当たってもなかなか倒れない。

繰り返し投げるうちに、ペットボトルの当たる場所によっては倒れることに気づく。的をよく見て、ピュンと力強く投げて倒す。「すごい、倒れた」と友達に言われると、「ここに当てると倒れるよ」と自分の気づきを相手に分かるように伝える姿もある。的に当てるたびに「1点だ」「2点になった」と言って競い始め、張り切って取り組む。

的当てゲームを十分に楽しんだ4人は、昼食後、「練習の成果を見せよう」と言い、他の友達も誘ってドッジボールを始める。狙った相手にボールが当たるとうれしそうに、「やった」「練習したからね」と互いに声を掛け合う。



この事例から考える
【幼児期に育みたい資質・能力】

知識及び技能の基礎

- 自分のめあてに向けて繰り返し取り組み、ボールを投げる強さや向きを調整するようになる

思考力、判断力、表現力等の基礎

- 自分たちで、遊び方を考えたり、遊びの場をつくり変えたりする
- 自分の気づきを友達に分かるように伝える

学びに向かう力、人間性等

- 友達とめあてに向けて取り組む中で、つながりを感じたり、互いのよさを認めたりする
- 「もっとこうしたい」というやりたいことに向けて、友達と一緒に実現しようとし、夢中になって投げたり当てたりを繰り返し、満足感を味わう



実践事例 全学年の事例の整理

幼児が“やりたい”という思いをもって主体的に取り組む運動的な遊びの場面を事例として考察した。遊びごとに分類し、整理することで、学年ごとの「幼児の成長・発達」と「遊びの変化・深まり」について具体的に捉えることができた。下図は多くの事例の分類から一例として、「遊具を使って動く遊び(ボールなど)」の事例を示している。





事例検討から、環境を通して幼児の“やりたい”という思いが支えられ、主体的に遊ぶ中で育まれる

資質・能力について、以下のとおり捉えた。

知識及び技能の基礎

3歳児

- 身近なものを遊びに取り入れながら、いろいろな感触や変化に気付く
- 用具や教材を自分なりに使って遊ぶ楽しさを感じる
- 遊び方やルールが分かり、保育者や周りの幼児と一緒に動く面白さを感じる
- 繰り返す中で、自分なりの動きを楽しむ

4歳児

- ものに関わり特性に気付く
- 自分の思い付いたことや、やりたいことに合う用具や教材を選んで使う
- 用具や教材を組み合わせて使って遊ぶ面白さを感じる
- 遊び方やルールが分かり、みんなで動く楽しくなることに気付く
- 繰り返し楽しむ中で、多様な動きを獲得する
- 友達の動きを意識して動く面白さを感じる
- 数量や図形に関心を持ち、遊びの中で使う

5歳児

- やりたいことを実現するための方法に気付く
- 実現したい自分のめあてや友達との共通の目的に向けて取り組み充実感をもつ
- 多様な動きを繰り返し楽しむ中で、より巧みな動きを獲得する
- 相手の動きに応じて、体の動きを調整する
- 数量や図形に関心を持ち、必要感をもって遊びの中で活用する

- 自分で用具・教材を扱えるように
- 繰り返しやりたいと思えるように



3歳児

- 保育者に親しみをもち、安心して動く
- 保育者に自分の思いを動きや言葉で表し、受け止められ安心感をもつ
- 自分から周りの人やものに関わろうとする
- 面白い、楽しいと感じたことを満足するまでやってみる
- 保育者や周りの幼児と一緒に動くことを楽しむ
- 保育者や周りの幼児と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ

4歳児

- 自分のやりたいと喜ぶ
- 保育者や友達と触れながら、友達の喜びや気付く
- 他者からの刺激を受をもつ
- 自分でつくったものを楽しむ
- 少し難しいことにもやってみる
- 友達と一緒に動いた楽しむ
- 学級の友達や保育者遊びを楽しむ

思ったことを実現して
合う心地よさを感じながら、悲しみなどの感情にも
け、やってみようという気持ち
や場を使って遊ぶこと
楽しさを感じ、繰り返し
り関わったりすることを
と一緒にルールのある

5歳児

- 諦めずに最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう
- 友達と仲間意識やつながりを感じながら遊びを進める充実感を味わう
- 友達と一緒に遊ぶ中で自分の力を発揮しようとする
- 様々な経験を積み重ねる中で、互いのよさを認め合う
- 友達からの刺激を受け、意欲的に取り組む
- 初めてのことや難しいことにも挑戦しようとする
- 友達と共通の目的の実現に向けて進め、達成感を味わう
- 互いに考えを出し合いながら、よりよい方法を見付ける
- 社会事象に関心を持ち、遊びの中に取り入れる
- 友達と一緒にルールのある遊びをする中で、競い合う面白さを感じる

- 興味をもてるように
- 友達と一緒に楽しめるように



思考力、判断力、表現力等の基礎

3歳児

- 使いたいものを選んで使ったり、試したりする
- 身近なものに関わりながら自分の思い付いたことをやってみる
- 保育者や周りの幼児の動きを感じ、自分の思い付いた動きをする
- 感じたことを動きや言葉で表現する
- 身近な環境に興味をもち自分なりに表現する
- 何かに見立てたり、何かのつもりになったりして遊ぶ楽しさを感じる

4歳児

- 思い付いたことを試したり工夫したりする
- 様々な環境に触れ、不思議さや面白さを感じてやってみる
- 相手の動きや周りの状況に応じて、考えて動く
- 自分の思ったことや感じたことを動きや言葉で表現する
- 友達と動きや言葉でやりとりをする楽しさを感じる
- 自分のやりたいことを自分なりに考えて実現する
- 何かに見立てたり、何かのつもりになったりして友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる

5歳児

- 実現したいことに向かって試したり工夫したりする
- 予想したり予測したりしながら試行錯誤する
- より遊びが楽しくなるように、自分たちでルールを変えたり場を考えたりする
- これまでの経験から用具・教材の特性が分かり、選んで遊びに生かす
- 友達の考えに触れ、自分で考え直したり、新しい考えを生み出したり、判断したりする
- 気付いたことや考えたことを相手に分かるように伝える
- 自分たちのしていることを振り返り、次のめあてを見付ける
- 自ら環境に関わり、美しさや面白さ、不思議さなどの心動かされたことを様々な方法で表現する
- 友達と考えを出し合いながら様々な表現を楽しむ

- 試したり、工夫したりできるように
- 表現する楽しさを感じられるように











まとめ

幼児の“やりたい”という思いを支える環境の工夫(令和4年度・5年度版)

●物的環境の工夫 ●人的環境の工夫

事例で見られた環境の工夫を整理し、令和2年度・3年度の研究で作成した「環境の工夫の表」に、追記した。

“やりたい”という思いを支える環境の観点	3歳児	4歳児	5歳児
 自分で用具・教材を扱えるように	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児に親しみのある用具・教材を複数用意しておき「自分も使いたい」という一人ひとりの思いに応じられるようにする ● 幼児と一緒に遊びながら、用具・教材にはいろいろな使い方があることに気付くようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児の発達や技能に応じた用感じるとともに、成功体験を積み重ねる ● 幼児の興味に合わせて、ものの特徴を利用した遊び方に出合えるようにする ● 幼児と一緒に遊びながら、用具・教材の置き方や表示を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児が遊びに取り入れ、自分たちでやりたいことを実現できるように新しい用具・教材を提示する ● 幼児と一緒に動きながら、扱い方やコツを伝える ● 幼児が友達の姿から気付いたり、幼児同士で伝え合ったりして、用具・教材の特性や使い方に気付くようにする
 繰り返しやりたいと思えるように	<ul style="list-style-type: none"> ● やりたいことがすぐにでき、満足するまで扱え、一人ひとりが自分のペースで楽しめる数や量の用具・教材を用意する ● さまざまな手触りのものに出合う機会をつくり、いろいろな感触を味わえるようにする ● イメージをもちやすく、見立てたりつもりになったりすることを楽しみながら遊ぶことができる用具・教材を用意する ● 自分がしたこと変化が感じられる教材を用意する ● 他学年から刺激を受けて遊ぶときには、幼児がその遊びの雰囲気や面白さをまねできるような遊び方に変えて、楽しさを十分に感じられるようにする ● 幼児が楽しんでいることや満足している気持ちに共感する ● 幼児がしていることをありのまま受け止め、保育者も一緒に楽しむ ● 幼児のイメージに添った言葉をつぶやくことで、つもりになって繰り返し動けるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で安全に扱える用具・教材を用意する ● 時には日常的な製作コーナーに触れられるようにする ● 幼児の動き方や楽しみ方に応じて、場の構成や再構成をする ● 幼児が感じている面白さを保っていることの意味付けをした ● 遊びの中で数量が出てきたことを味わい、次のめあてをもてる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「もっとこうしたい」「こうしてみてもどうだろう」という自分のめあてや共通の目的をもって、じっくりと取り組めるように時間や場を保障する ● 手軽に使えるものだけでなく、幼児が遊びながら面白さを追求し、手応えを感じられる教材の選択や置き方、出し方をする ● ルールのある遊びなどで、園庭で十分に体を動かす心地よさを味わえるよう、他の保育者と連携して他学年と動線が重ならないように場や時間を設定する ● 幼児のやり遂げた嬉しさや達成感、充実感に共感する ● 保育者も遊びの一員として関わりながら、幼児の発見や気づきに共感したり、諦めずにやり遂げようとする姿を支えたりする ● 遊びや生活の中で、幼児が数えたり、比べたりする必要感や面白さを感じて、友達と共通の目的をもてるようにする ● 多様な動きを楽しめるように保育者がモデルとなったり、仲間として一緒に遊んだりする
 試したり、工夫したりできるように	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で扱えて満足できる用具・教材を用意する ● 感触や動きに変化がある教材を精選する ● 幼児が感じている驚きや不思議さに共感しながら一緒に面白がる ● 幼児が思い付いた遊び方を保育者が受け止め一緒に楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で扱えて、考えたことや思っ変化したり組み合わせたりでき ● 相手の動きに応じたり予測される ● 偶然起きた事象への興味や気づき ● 幼児の必要感に応じてルール ● どのように動いたらよいか考えがモデルとなって動いたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実現したいめあてに向かって試行錯誤できるような用具・教材を用意したり、時間や場を保障したりする ● 幼児がものの特長や仕組みが分かり、それを遊びに取り入れられるような用具・教材を用意する ● 実際に友達の動きを見たり、ICT機器で振り返ったりできるようにすることで、動きを考えるきっかけをつくる ● やらうとしていることが幼児同士で分かり合えるように、保育者が言葉を添えて確かめたり、考えを引き出したりする ● 幼児の考えや困っていることを学級で共有する機会をもち、新たな考えや気づきにつなげる ● 幼児の発想や工夫を受け止め、めあてが実現できる用具・教材と一緒に考え、幼児が試したり工夫したりする姿を見守る ● 幼児の必要感から自分たちでルールを変えたり、場を考えたりして、遊びをより楽しくしようとする思いを受け止める
 表現する楽しさを感じられるように	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な用具・教材を置いた製作コーナーを設定する ● 身近な自然物を遊びや表現活動に取り入れる ● 幼児の遊びのきっかけとなるよう、季節や生活、身近な出来事への興味に応じて壁面装飾を設定する ● 幼児一人ひとりがなりきって動くことを楽しめるものや場を用意する ● 心動かされる出来事を自分なりの方法で表現している姿を受け止める ● 擬声語・擬態語(オノマトペ)やリズムカルな言葉の面白さを一緒に感じる ● 幼児が見立てたり、なりきったりしている面白さや楽しさを受け止め、共感する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 色や形、音などの美しさや不思議さを感じられる用具・教材を用意する ● つくったものを大切に、繰り返し遊ぶ ● 新しい用具・教材に出会い、遊びに取り入れられるようにする ● 「こうやってみよう」「先生、見て」方に共感する ● 友達と一緒になりきって動いた 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの経験を生かして幼児が選んだ用具・教材を提示できるように用意する ● 心動かされる出来事や生活体験を通して、幼児が美しさや面白さ、不思議さを表現する過程を楽しめるようにする ● 感じたことや考えたことを友達同士で表現する喜びを味わえるよう、音楽をかけたり楽器を鳴らしたりできるものや場を用意する ● 保育者も遊びの一員として関わりながら、幼児のやりたい思いの実現のために一緒に考えたり、幼児の思いに寄り添ったりする ● 学級の友達や他学年の幼児に自分の表現を認められ満足感や意欲を感じられる機会をもち ● 幼児の発想や工夫を受け止めながら、一緒に教材を探したり、用具の扱い方を考えたりして、幼児が自分のめあてに向かう姿を見守る ● 幼児同士がそれぞれの表現を認め合い、取り入れたり新たな表現を考えたりする楽しさに共感する
 興味をもてるように	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活の中で経験しているものを遊びの題材にし、身近な環境との多様な関わりを楽しめるようにする ● 幼児のイメージに寄り添いながら、環境を変化させることで、さらに活動に期待がもてるようにする ● 幼児なりの動きや表情、言葉で表現する姿を受け止めながら、保育者や他の幼児の姿にも気付くようにする ● 他学年の幼児や周りの幼児の動きを感じて遊べる場や機会を意識的につくる ● 保育者が一緒に遊び、動きを言葉にして楽しそうな雰囲気づくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で選んだり組み合わせたりしたことを自分で実現できた ● 新しい用具・教材、技法に出合 ● 翌日も遊び出しやすく、幼児のイ ● 幼児と一緒に遊びながら教材 ● 学級の友達や年長児の姿に関わりできるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用具・教材を自分で選んだり、保育者に要求したりして、やりたいことを実現する経験を積み重ねられるようにする ● 幼児が面白さや不思議さを感じてももの性質や仕組みを知ろうとしたり、挑戦しようとしていたりできるような用具・教材を用意する ● 社会事象に興味をもったときに遊びに取り入れることができるよう用具・教材を用意しておく ● 幼児の嬉しさ、悔しさなど様々な思いに共感しながら遊びを振り返る時間をもつことで、幼児が次のめあてに向かえるようにする
 友達と一緒に楽しめるように	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりがゆったり取り組めるように場を分けたり、一緒に過ごす楽しさを味わえるように場を近づけたりする ● 互いの動きを感じながら、2、3人の幼児と同じ場で過ごせるような場や空間を構成できる用具を用意する ● 周りの幼児と同じことがしたいときに、同じことができるような数の用具・教材を用意する ● 周囲の幼児の存在に気付くような言葉を掛けたり、一緒に過ごす楽しさに共感したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊びの拠点となる場をつくった材、遊具を用意する ● 友達や保育者と触れ合う心地よさを構成できる用具を進められるように材を用意する ● 幼児が友達と一緒に動いたり一人ひとりの思いや考えが相渡りする ● 幼児の動きや楽しさを保育者と共有できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 園生活の流れの中で、自分なりに見通しをもって友達とやりたいことが実現できるように、学級の話し合いや幼児が確認できる掲示の仕方をする ● 友達と力を合わせることでつながりを感じたり、競い合ったりして楽しめる遊具や活動を精選する ● 友達との遊びの中で、自分の力を発揮して充実感を味わえる用具・教材や活動を提案する ● 友達同士で相談して遊びを進める姿を認め、時には状況や課題を整理したり、解決の方法を一緒に考えたりする ● 自分の思いが友達に伝わるうれしさを感じられるよう、幼児の姿を見守りながら必要に応じて言葉の橋渡しをする ● 友達同士で楽しめるように自分たちで進められる方法を一緒に考えたり、自分たちで進める姿を見守ったりする ● 共通の目的に向かって取り組み、一緒に喜んだり、難しいときには助け合ったりするなど温かい人との関わりを育む



小学校との接続

杉並区では各小学校学区内にある就学前教育施設と小学校とで、杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラムの取組を進めている。

本園と桃井第三小学校でも、保育者と小学校教員の合同研修や幼児と児童の交流活動を教育課程に位置付けて実施している。幼保小連携の取組の一つである合同研修では、本園の研究から、幼児の“やりたい”という思いを支える環境の在り方と幼児期に育みたい資質・能力について、実践事例を通して小学校に伝えながら、幼保小連携の充実を図っている。

昨年の合同研修では、子供園の5歳児が、カメの世話を“やりたい”という思いをもって取り組む姿を話題にした。幼児がカメと関わる中で気付いたことから、生き物に適した接し方を保育者と一緒に調べたり、幼児の考えたことを実際にやってみたり、そこで分かったことを学級の友達に伝えたりした事例を通して、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を基に、育みたい資質・能力について小学校教員と協議する機会をもった。その後、1年生担任が、学級の係活動に取り組む際には、「園ではどうしていましたか」「みんなはどうしたらいいと思いますか」などと投げ掛けながら、児童の自発的な学びの芽を大切に取る取組をしたという報告を受けた。

幼保小連携の取組を進める中で、保育者が小学校教育を十分に理解することや、小学校教員に環境を通して行う幼児教育を伝えることはたやすいことではないと感じることもあるが、保育者と教員が幼児期から小学校以降の資質・能力のつながりを理解し、見通しをもって双方の教育を見直し、改善を図っていくことは重要である。今後も互いの教育について理解を深め、発達や学びの連続性を図っていけるように、推進していきたい。



成果と課題

当初は、「幼児期に育みたい資質・能力」が重要なものであることは理解していても、日々の保育での幼児の姿とのつながりを理解することの難しさを感じていた。研究に取り組み、事例の検討を重ねる中で、“やりたい”という思いをもって遊ぶ幼児の姿と「幼児期に育みたい資質・能力」とを関連付けて考え、ねらいや内容を設定し、環境構成を考えられるようになった。また、本園で作成した「幼児の“やりたい”という思いを支える環境の工夫」の観点を基にした保育者同士の話し合いが活発になり、環境の工夫や援助の方向など保育の在り方を考え合い、理解し合うことができた。

研究を通して本園で見いだした環境の観点が必ずしも最適であるとは考えていない。今後も保育の実践を通して、常に改善を図りながら保育の充実に努めたい。

御指導いただいた先生

共立女子大学家政学部児童学科教授 **田代 幸代 先生**

研究に携わった教職員

園 長：石床 美穂子

副 園 長：小森 三奈子

幼稚園教諭：佐藤 美波／船井 佐和子／松川 つかさ／成田 希美／杉本 有優美

子供園保育職：佐久間 直子／小林 尚美／松園 なつみ／阿曾 悦子／池田 佳子／吉田 雅子／平崎 真美



杉並区立西荻北子供園

〒167-0042 東京都杉並区西荻北1-19-22 TEL:03-3399-0848 FAX:03-3399-0724

<https://www.suginami-school.ed.jp/nishiogikitaodo/>